

福井県医療審議会	資料 1
令和5年3月28日（火） 19時～	

# 第7次福井県医療計画の進捗について (2018～2023年度)

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（がん）

- <目標>
- ①がんの年齢調整死亡率（75歳未満）：10%減少
  - ②各がん毎の検診受診率：50%
  - ③各がん毎の精密検査受診率：90%
  - ④成人喫煙率：12%に減少（2022年まで）

<現状> ①がんの年齢調整死亡率（75歳未満）

種別	策定時(H28)	現状(R3)
年齢調整死亡率 (人口10万人対)	71.8人	60.1人

②がん検診受診率

令和3年度がん検診（70歳未満）の実施状況（福井県独自調査）

種別	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
R2受診率(%)	26.1	54.8	41.4	38.5	43.4
R3受診率(%)	31.8	60.6	46.6	40.9	45.6

③がん精密検査受診率

令和元年度がん精密検査受診状況（地域保健・健康増進事業報告）

種別	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
H30受診率(%)	83.0	71.0	71.6	78.8	90.6
R1受診率(%)	87.0	74.4	71.7	83.6	90.0

④成人喫煙率

平成23年：16.2% → 平成28年 20.9%（県民健康・栄養調査）

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（脳卒中）

## ①脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法適用患者への実施件数 目標：全国平均以上を維持

年度	福井県	全国
計画策定時（H27年度）	89件（11.1件／人口10万人対）	（10.5件／人口10万人対）
現状（R2年度）	125件（16.0件／人口10万人対）	15,283件（12.0件／人口10万人対）

## ②脳梗塞に対する脳血管内治療の実施件数 目標：全国平均以上を維持

年度	福井県	全国
計画策定時（H27年度）	54件（6.7件／人口10万人対）	（6.3件／人口10万人対）
現状（R2年度）	88件（11.3件／人口10万人対）	16,360件（12.9件／人口10万人対）

## ③地域連携クリティカルパス実施医療機関数（R2.11～R3.10） 目標：急性期7、回復期18機関

医療圏	急性期病院名（パス発信件数）	回復期病院名（パス受信件数）
福井・坂井	済生会病院(120)、県立病院(127)、福井赤十字病院(189)、福井大学附属病院(88)	大滝病院(71)、嶋田病院(177)、福井厚生病院(29)、福井総合病院(90)、福井リハビリテーション病院(23)、春江病院(63)、あわら病院(1)
奥越		福井勝山総合病院(9)
丹南	公立丹南病院(14)	木村病院(89)、広瀬病院(8)
嶺南	市立敦賀病院(17)、公立小浜病院(8)	泉ヶ丘病院(7)
計	7箇所	11箇所

## ④地域連携クリティカルパスの実施医療機関（急性期病院）での適用率 目標：25%以上

医療圏	H29.11～30.10	H30.11～R1.10	R1.11～R2.10	R2.11～R3.10
福井・坂井	36.1%	33.3%	34.4%	40.3%
奥越	0%	0%	0%	0%
丹南	10.4%	16.7%	24.2%	12.0%
嶺南	7.2%	7.1%	7.6%	6.4%
計	27.9%	27.4%	28.3%	31.1%

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（心筋梗塞等の心血管疾患）

- ①来院から閉塞冠動脈の再灌流（Door to Balloon）までに要した平均時間 目標：90分以内  
 ②紹介患者に対する冠疾患・心不全地域連携クリティカルパスの運用率 目標：30%以上

（単位 ①：分、②：%）

区分	医療圏	医療機関名	①PCI実施までに要した時間			②紹介患者に対する運用率
			H28(策定時)	R3	R4	R3
急性期病院	福井・坂井	済生会病院	84	71	84	
		県立病院	85	77	80	○
		福井循環器病院	73	36	46	○
		福井赤十字病院	73	85	85	
		福井総合病院	61	126	112	○
		福井大学附属病院	84	86	74	
	丹南	中村病院	53	48	55	
	嶺南	市立敦賀病院	90	68	70	
		公立小浜病院	85	80	65	
			平均	76.4	75	75

※ ○は目標達成

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（糖尿病）

- <目標>
- ①特定健康診査受診率：70%
  - ②特定保健指導受診率：45%
  - ③尿中アルブミン検査実施件数（人口10万人対）：全国平均以上
  - ④70歳未満の糖尿病性腎症による新規透析導入患者数（70歳未満人口10万人対）：減少
  - ⑤透析予防指導管理を実施する医療機関数：10カ所以上
  - ⑥糖尿病連携手帳等を活用して連携している医療機関の割合：40%以上
  - ⑦糖尿病に関する専門知識を有する医療従事者数：毎年100人以上取得
- <現状>

	計画策定時	現状	備考
①特定健康診査受診率	48.9%(H27)	<b>52.8%(R2)</b>	医療保険者から国に報告された特定健康診査の実施結果より
②特定保健指導受診率	22.5%(H27)	<b>25.1%(R2)</b>	医療保険者から国に報告された特定保健指導の実施結果より
③尿中アルブミン検査実施件数 （人口10万人対）	1,321件(H27) （全国平均1,627件）	<b>1,416件(R2)</b> （全国平均2,139件）	厚生労働省第7回NDBオープンデータより
④70歳未満の糖尿病性腎症による新規 透析導入患者数（70歳未満人口10万人対）	14.9人(H28)	<b>11.1人(R4)</b>	福井県透析医療提供体制調査結果より
⑤透析予防指導管理を実施する医療 機関数	8箇所(H29)	<b>10箇所(R4)</b>	近畿厚生局保険医療機関施設基準の届出受理状況(医科)より
⑥糖尿病連携手帳等を活用して連携 している医療機関の割合	28.9%(H29)	<b>41.0%(R4)</b>	福井県糖尿病医療機能調査結果より
⑦糖尿病に関する専門知識を有する 医療従事者数	103人取得(H29)	<b>108人取得(R4)</b>	福井県健康政策課まとめ(日本糖尿病協会・学会・糖尿病療養指導士認定機構・地域療養指導士等データベースより)

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（精神疾患）

## <目標>

- ①長期入院患者数（1年以上）：982人
- ②入院後1年時点での退院率：90%以上
- ③退院後3か月時点の再入院率（1年未満入院患者）：20%以下
- ④退院後3か月時点の再入院率（1年以上入院患者）：37%以下
- ⑤認知症サポート医：59人
- ⑥災害派遣精神医療チーム（DPAT）先遣隊の登録数：4チーム
- ⑦依存症専門医療等機関（依存症専門医療機関、依存症治療拠点機関）  
：専門医療機関3施設以上、治療拠点機関1施設以上
- ⑧摂食障害支援拠点病院：1施設
- ⑨地域平均生活日数：316日

## <現状>

	計画策定時 (⑦～⑨は指標の見直しに伴い追加)	現状 令和3年度末
①長期入院患者数（1年以上）	1,195人	1,067人
②入院後1年時点での退院率	90%	92%
③退院後3か月時点の再入院率(1年未満入院患者)	22%	16%
④退院後3か月時点の再入院率(1年以上入院患者)	44%	32%
⑤認知症サポート医	43人	69人
⑥災害派遣精神医療チーム（DPAT）先遣隊の登録数	2チーム	5チーム
⑦依存症専門医療機関	1施設	1施設
依存症専門医療機関	0施設	0施設
依存症治療拠点機関		
⑧摂食障害支援拠点病院	0施設	0施設
⑨地域平均生活日数	306日	306日

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（小児医療）

- <目標>
- ①#8000子ども医療電話相談件数：6,000件以上／年
  - ②小児救急夜間輪番病院制参加病院の夜間の受診者数：減少
  - ③保護者向けの小児救急講習会の開催：17回以上／年
  - ④小児死亡率：全国値以下
  - ⑤災害時小児周産期リエゾン任命者数：2名／年

<現状>

	計画策定時	現状	備考
①#8000子ども医療電話相談件数 【県調査】	6,592件 (H28年間実績)	<b>7,368件</b> (R3年間実績)	
②小児救急夜間輪番病院制参加病院の 夜間の受診者数 【県調査】	10,007人 (H28年間実績)	<b>6,009人</b> (R3年間実績)	
③保護者向けの小児救急講習会の開催 【県調査】	12回 (H28年間実績)	<b>10回</b> (R3年間実績)	
④小児死亡率 【人口動態調査】	25.5 (H28年間実績)	<b>21.4</b> (R3年間実績)	(H28 全国平均 22.1) ( R3 全国平均 18.2)
⑤災害時小児周産期リエゾン任命者数 【県調査】	H29 累計3名 (養成者数)	<b>R4 2名(累計12名)</b>	指標の見直しにより養成者数から任命者数に変更

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（産科（周産期）医療）

- <目標>
- ①周産期死亡率：4.0以下（出産千対）
  - ②新生児死亡率：1.0以下（出生千対）
  - ③乳児死亡率：2.0以下（出生千対）
  - ④妊婦健診取扱施設での健診率：20%以上
  - ⑤災害時小児周産期リエゾン任命者数：2名／年

<現状>

	計画策定時(H28)	現状		備考
①周産期死亡率（出産千対）	4.2	R3	3.2	人口動態統計（妊娠満22週以後の死産＋生後1週未満の死亡）
②新生児死亡率（出生千対）	1.3	R3	0.8	人口動態統計（生後4週未満の死亡）
③乳児死亡率（出生千対）	2.6	R3	1.1	人口動態統計（生後1年未満の死亡）
④妊婦健診取扱施設での健診率	11.6%	R3	16.5%	妊婦健診受診者における健診取扱施設（分娩施設除く）での健診率
⑤災害時小児周産期リエゾン任命者数	H29 累計3名 (養成者数)	R4	2名 (累計12名)	県調査（指標の見直しにより養成者数から任命者数に変更）

年		昭和60	平成2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和1	2	3
周産期死亡率	全国	15.4	11.1	7.0	5.8	4.8	4.2	4.1	4.0	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.3	3.4	3.2	3.4
	福井県	14.9	9.8	8.0	7.4	4.0	2.9	5.6	4.6	4.3	4.5	4.5	4.2	2.9	3.6	3.2	4.1	3.2
新生児死亡率	全国	3.4	2.6	2.2	1.8	1.4	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8
	福井県	4.0	3.5	2.5	2.6	1.3	1.2	0.4	1.3	0.9	0.8	0.3	1.3	0.9	0.3	1.5	2.6	0.8
乳児死亡率	全国	5.5	4.6	4.3	3.2	2.8	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	1.9	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.7
	福井県	7.3	4.8	5.3	3.7	2.8	2.2	1.8	2.1	1.9	1.9	1.8	2.6	1.9	1.4	2.3	4.5	1.1



# 第7次福井県医療計画の進捗状況（救急医療）

## <目標>

- ①重症以上傷病者の搬送において、医療機関に4回以上受入れの照会を行った割合 目標：1%未満
- ②救急要請から救急医療機関への搬送までに要した平均時間 目標：全国3位以内
- ③心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、一般市民により除細動が実施された件数 目標：全国平均以上
- ④心原性でかつ一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された症例の1ヶ月後の社会復帰率 目標：全国平均以上

## <現状>

- ①重症以上傷病者の搬送において、医療機関に4回以上受入れの照会を行った割合

医療機関名	H30			R元			R2		
	件数(件)	割合(%)	全国順位	件数(件)	割合(%)	全国順位	件数(件)	割合(%)	全国順位
重症以上傷病者	19	0.5	8	24	0.7	9	21	0.6	8

- ②救急要請から救急医療機関への搬送までに要した平均時間

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
本県平均	30.3	30.1	30.5	31.3	31.6	31.9	32.3	34.0	33.0	34.0	36.1
全国平均	38.1	38.7	39.3	39.4	39.4	39.3	39.3	39.5	39.5	40.6	42.8
全国順位	3位	3位	3位	3位	3位	3位	4位	9位	7位	7位	6位

- ③心肺機能停止傷病者全搬送人員のうち、一般市民により除細動が実施された件数

R3実績：1.04件／人口10万人対（全国平均1.36件） ※ 福井県 R2：0.65件

- ④心原性でかつ一般市民により心肺機能停止の時点が目撃された症例の1ヶ月後の社会復帰率

R3実績：7.0%（9人／128人）（全国平均6.9%） ※ 福井県 R2：4.8%

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（災害時医療）

- <目標>
- ①DMATチーム編成数：25チーム、統括DMAT隊員数：16名
  - ②DMATインストラクター数：6名、ロジスティックチーム隊員数：6名
  - ③DPAT先遣隊編成数：4チーム
  - ④災害時小児周産期リエゾン任命者数：2名／年
  - ⑤業務継続計画（BCP）策定率：災害拠点病院100%
  - ⑥災害医療調整機能を組み入れた訓練・研修の実施：3回／年

<現状>

	計画策定時		現状		備考
①DMATチーム編成数 統括DMAT隊員数	H29	23チーム 14名	R4	26チーム 17名	
②DMATインストラクター数 ロジスティックチーム隊員数	H29	1名 6名	R4	4名 9名	
③DPAT先遣隊編成数	H29	2チーム	R4	6チーム	
④災害時小児周産期リエゾン 任命者数	H29	累計3名 (養成者数)	R4	2名 (累計12名)	指標の見直しにより養成者数から任命者数に変更
⑤業務継続計画（BCP）策定率		55.6%	R4	100.0%	
⑥災害医療調整機能を組み入れた 訓練・研修の実施	H29	3回／年	R4	4回／年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県総合防災訓練</li> <li>・国民保護図上訓練</li> <li>・ACT研修</li> <li>・MIMMS研修</li> </ul>

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（へき地医療）

- <目標>
- ①嶺南地区の巡回診療：継続実施
  - ②へき地拠点病院からへき地診療所への代診医派遣：全ての要請に応じて派遣

<現状> ①公立小浜病院による無医地区等巡回診療実施状況

無医地区名		29年度			30年度			元年度			2年度			3年度		
		回数	患者数	平均患者数	回数	患者数	平均患者数	回数	患者数	平均患者数	回数	患者数	平均患者数	回数	患者数	平均患者数
		(回)	(人)	(人)	(回)	(人)	(人)	(回)	(人)	(人)	(回)	(人)	(人)	(回)	(人)	(人)
若狭町	西浦	24	344	14.33	24	361	15.04	24	340	14.17	24	341	14.21	24	304	12.67
	奥杉山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	河内	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小浜市	堅海	24	154	6.42	24	143	5.96	24	98	4.08	24	136	5.67	24	120	5.00
	上根来	24	129	5.38	24	115	4.79	24	94	3.92	24	96	4.00	24	72	3.00
	宮川	24	28	1.17	24	23	0.96	23	21	0.91	—	—	—	—	—	—
高浜町	音海	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	日引	24	38	1.58	19	34	1.79	12	24	2.00	12	23	1.92	12	24	2.00
計8地区		120	693	5.78	115	676	5.88	107	577	5.39	84	596	7.10	84	520	6.19

②へき地診療所への代診医派遣回数（派遣要請への対応率100%）

へき地医療拠点病院名	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
福井県立病院（支援機構）	11	15	11	1	14
公立丹南病院	7	6	1	2	5
公立小浜病院	5	1	2	1	3
福井県済生会病院	2	0	1	1	4
計	25	22	15	5	26

# 第7次福井県医療計画の進捗状況（在宅医療）

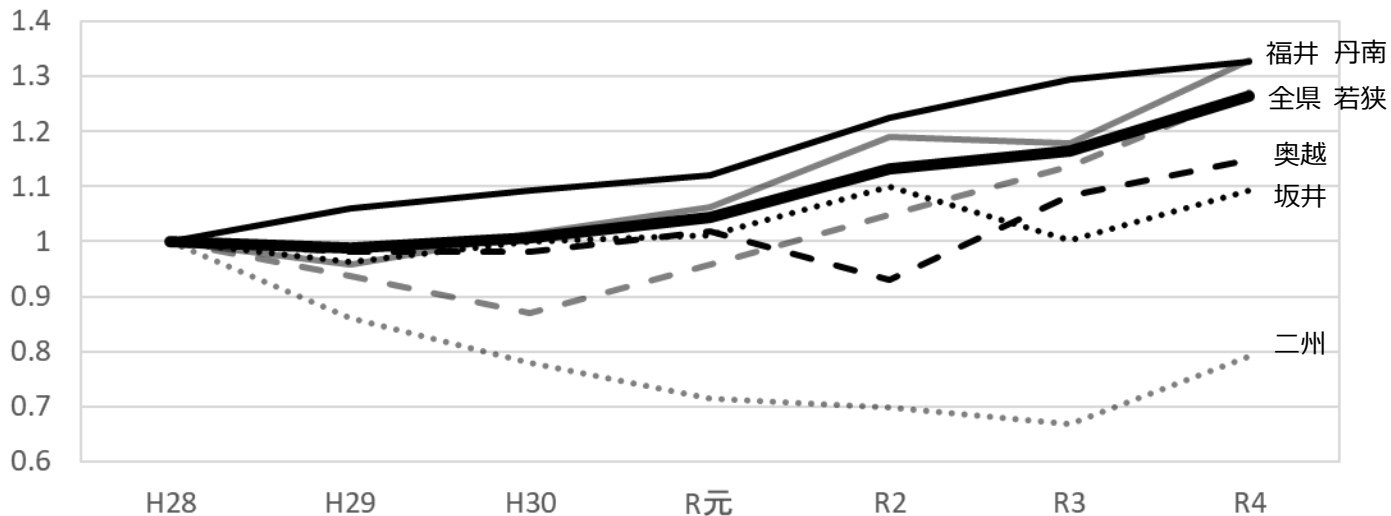
- <目標>
- ①訪問診療を受けた患者数：3,392人（2023年）
  - ②訪問看護の利用者数：8%増（2019年：6,366人⇒2023年：6,875人）
  - ③介護支援連携指導を受けた患者数：8%増（2019年：4,320人⇒2023年：4,665人）
  - ④在宅ターミナルケアを受けた患者数：8%増（2019年：449人⇒2023年：484人）
  - ⑤訪問診療を実施している医療機関数：現状維持（R2：288施設） ※指標の見直しに伴い追加

<現状>

	2019（R元）	2020（R2）	2021（R3）	2022（R4）	基準年（R元）比
①	3,128人	3,392人	3,491人	<b>3,784人</b>	121.0%
②	6,366人	6,680人	6,999人	<b>7,133人</b>	112.0%
③	4,320人	3,173人	2,276人	<b>2,161人</b>	50.0%
④	449人	476人	626人	<b>708人</b>	157.7%
⑤	273施設	288施設	288施設	<b>291施設</b>	※基準年R2 104.1%

※コロナ禍による  
カンファレンス減

訪問診療を受けた患者数の圏域別推移（H28=1とした場合）



# 【参考】医療的ケア児の小児在宅医療

## 現 状

- ・本県における訪問看護を受ける小児(18歳未満)の数は年々増加(平成29年9月:73人/月 → 令和3年9月:99人/月)
- ・医療的ケア児が地域で適切なケアを受けられるよう、小児在宅医療に携わる医師などの人材育成が必要
- ・医療、福祉、保健等の各サービスの調整を保護者が行うことが負担になっていることから、関係者の連携体制の強化が重要

## 主な施策

### ○小児在宅医療推進協議会、小児在宅推進研修会、小児在宅医療に関する研修会の開催(令和元年度～)

- ・地域の小児科医や在宅医に対する意識啓発、障がい児の治療・看護を行う医師・看護師、特別支援学校教諭等を対象とした研修を実施  
令和3年度実績 : 小児在宅医療に関する研修会(R3.12.15開催) 32名参加、小児在宅推進研修会(コロナのため開催中止)  
令和4年度実績 : 医療的ケア児者の在宅医療支援研修会(R4.11～R5. 3全4回開催)各100名程度参加

### ○訪問看護の利用時間延長に係る費用助成(新規事業。令和3年12月より実施)

- ・医療的ケア児の家族から在宅生活における支援の充実を求める声が多いため、訪問看護の利用延長により在宅での生活支援を充実  
【事業内容】 事業所が訪問看護の延長サービスを実践する費用を助成(長時間訪問看護加算と基本サービス料金の差額を県が補填)  
→ 訪問1回あたり1.5時間(通常)+1.5時間(長時間)+(延長) = 3時間超のサービス利用が可能

### ○医療的ケア児者支援センター設置(令和4年8月1日)

- ・医療的ケア児者とその家族等に対する相談支援や、地域における連携体制の構築支援等を行うことにより、医療的ケア児者に対して地域で切れ目なく支援するためのサポートを行うセンターを設置(医療法人育ちのクリニック津田内に併設)  
令和4年度実績(8～12月):相談18件、関係機関と連携(情報提供、助言)14件

## 課 題

- ・依然、医療的ケア児に対応できる人材が不足
- ・レスパイト入院、緊急時の受入れ先が不足

## 今後の対応方針

- ・地域において医療的ケア児者に対応できる人材育成の研修を実施
- ・レスパイト入院の拡充、訪問看護延長サービスを実施